

令和7年度 学校評価報告書

学校名	ひまわり特別支援学校
-----	------------

1 学校教育目標

人との豊かなつながりの中で、一人一人の自立と社会参加を目指し、たくましく生きる力を育成する。

2 今年度の学校重点目標

(1) 個に応じた教育課程の編成 (2) 交流及び共同学習の充実
 (3) キャリア教育、進路指導の充実 (4) 安全、安心な学校づくりの推進
 (5) 開かれた学校づくりの推進 (6) 三田市特別支援教育のセンター的機能の充実

3 総合的な自己評価

肢体不自由教育に求められる専門性を身につけ、向上させるために、教職員の中から一人一人が指導案を作成し、授業公開・事後研究会をする必要があると声が上がリ、実施できた。また、看護職員とのコミュニケーションを密に取り、医療的ケアがより安全に実施できるようになった。

4 総合的な学校関係者評価

在籍する児童生徒は濃厚な医療的ケアが必要であったり基礎疾患を有したりしており、重度重複化している。ますます専門性が求められる中、人材の育成は喫緊の課題である。週1回の14時下校を設定して確保した研修時間を有効に活用し、段階的に確実に専門性が向上するよう研修プログラムを組むことが大切である。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学校経営	学校教育目標、各学部目標(望ましい児童生徒像)の実現を目指して、適切に教育活動を進めているか。	児童生徒一人一人の成長が認められる。	全職員が各職種の役割の理解を深め、協働して、指導にあたる。	教員と看護職員が連携、協働し、互いの役割の理解がさらに深まっている。
	開かれた学校づくりのための学校の情報が保護者や地域に積極的に発信され、お互いの信頼関係が構築されているか。	保護者と意見交換を行い、信頼関係が深まった。	事業所連絡会等でより多くの意見を聞けるように努める。	小学部の児童数が減っていくため、今後の体制について保護者に理解を求める必要がある。
教育課程・学習指導	個別の指導計画に基づいた教育課程が編成され、個に応じた教育活動が実施されているか。	指導期間を前・後期とし、継続的な指導が実施できた。	各学部で指導計画を定期的に見直し、修正を図る。	指導目標を保護者と共有することは大変重要なことである。
	自立活動を中心とした個に応じた適切な指導が全教育活動の中で行われているか。	自立活動の指導における専門性の向上が課題である。	系統立てた研修会を開き、研究授業を行うなど自立活動の指導について専門性の向上を図る。	肢体不自由教育に初めて携わる教員のため、自立活動や教育課程についての理解を深めることは大切である。
保健管理	児童生徒の健康状態の把握による保健、安全、衛生管理が組織的に行われているか。	各部が連携協働して健康状態の把握を行っている。危機管理意識が高まった。	軽微なヒヤリハットを蓄積、共有し、事故の未然防止への意識をさらに高めていく。	重度重複障害の児童生徒が増えているため、わずかな変化も見逃さない観察力、専門性が求められる。
	医療的ケア実施要項に基づく医療的ケア実施に係る組織的な安全体制が整備され、実施されているか。	看護職員が安定して勤務し、安全体制が整っている。	シミュレーション訓練を積み重ね、緊急時対応力の向上を図る。	様々な事例を想定してシミュレーション訓練を積み重ねることが重要である。
研究推進・資質向上	研究主題や実践目標の実現に向け、一人一人が主体的、積極的に研究を進めているか。	全教員が研究授業を行い、主体的に研究に取り組んだ。	月1回の全体研修会を計画的、系統的に実施する。	教員から授業研究を実施したいと主体的に声が上がったことは今後につながる。
	自らの資質向上のために研修に取り組み、日々の実践の分析・評価及び指導方法の工夫改善に努めているか。	授業者は事後研究会を行い、授業改善に取り組んだ。	資質向上のためPDCAサイクルに基づいた実践を継続する。	日常的に指導について話し合い、相談できる雰囲気が醸成されることが大切である。